

本資料は、第1回作業部会において事務局から説明した論点及び作業部会における議論を踏まえ、卸売市場施設の整備に当たって特に考慮すべき具体的な事項を整理したものです。

今後の卸売市場整備の方向性骨子（案）

【全体】

今後の卸売市場の整備に当たっては、卸売市場基本方針に示された施設整備の方向性（①流通の効率化、②品質管理及び衛生管理の高度化、③情報通信技術その他の技術の利用、④国内外の需要への対応、⑤関連施設との有機的な連携）を踏まえつつ、大型車対応の荷受け施設や低温管理施設等卸売市場施設の利用状況の変化に対応するために必要な施設の整備と、施設管理の方法やデジタル技術の導入等開設者と関係事業者が連携したソフト面での取組を併せて実施することが必要。

具体的には、例えば以下のような取組について、各市場の取引実態や地域の特性を十分に把握したうえで検討し、必要な施設を適正な規模で整備する。

【検討すべき取組の例】

1. 搬入・荷受施設の整備

※①～⑤は卸売市場基本方針に示された方向性の対応番号

整備の方向性	整備と一体的に取り組む推奨事項
○大型車での搬入（①流通効率化） ・場内の一方通行化、入退場口の分離等物流動線の整理によりスムーズな入退場、荷役が可能となる施設構造の整備 ・入出荷の車両が集中する市場にあっては、複数台の車両が同時に荷役可能な通路等を整備 ・天候に左右されない荷捌きを行うため、庇、大屋根等を整備 ○パレチゼーション（①流通効率化） ・荷下ろし作業スペースの確保等、パレチゼーションを前提とした施設 ○デジタル化（③情報通信技術） ・検品等を自動化・省力化する RFID タグ付のパレット等を活用できる設備を整備	・場内の一方通行化、入退場口の分離等物流動線の整理によりスムーズな入退場、荷役を推進 ・トラック予約システムの導入により、荷待ち時間の短縮を図ることを推進 ・共有部の使用ルールの明確化 ・パレット管理ルールの明確化 ・納品伝票の電子化等、荷受作業における検品等の省力化を推進

2. 場内・搬出施設の整備

整備の方向性	整備と一体的に取り組む推奨事項
○パレチゼーション（①流通効率化） ・フォークリフトの荷役に必要な通路幅、パレットデポスペースの確保等、パレット荷役を前提とした施設整備	・場内の関係者でパレット荷役、循環体制等の現状や問題点を共有し、解決に向けた対策を講じるための検討体制を構築 ・共用部における荷下ろし、荷捌き、荷積みの秩序形成、パレット管理ルール of 明確化に取り組む
○品質・衛生管理の高度化（②品質・衛生管理） ・売場施設等の温度管理が可能な閉鎖型の施設構造	
○デジタル化（③情報通信技術） ・人手不足の解消・省力化を図るため、A G V等の自動搬送システムを活用できる施設設備、自動ラック等の整備	・デジタル技術を活用した商品管理により同一の売り場を時間帯別に卸・仲卸が共同利用することを可能とする等、作業スペースの共有化

- | | |
|--|--|
| <p>○ロールボックスパレット等の活用（④需要への対応）</p> <ul style="list-style-type: none">・ ロールボックスパレットやドリーでの荷役が円滑に行える、段差のない施設構造・ 搬出バースのプラットホーム化、ドックシェルター化・ 市場内にパレット、ロールボックスパレット、コンテナ等の搬送資材のデポスペースを確保 <p>○施設の有効活用（⑤関連施設との連携）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 共同作業スペース化や利用しない時間帯の多目的利用を前提とした汎用性の高い施設構造 | |
|--|--|

3. 保管・加工施設の整備

整備の方向性	整備と一体的に取り組む推奨事項
○在庫管理機能の強化（④需要への対応） ・在庫管理機能の強化に必要な冷凍・冷蔵施設等の整備 ○加工施設等の充実（④需要への対応） ・量販店、加工事業者、有機農産物、輸出対応など国内外の需要の変化に応じた荷姿での出荷が可能となるよう、場内に小分け、パッケージング、プレクックへの対応が可能な施設・設備の導入	

4. 防災・環境対応

整備の方向性	整備と一体的に取り組む推奨事項
○防災 ・ 想定される自然災害等に対して、施設の耐震化、耐水化、耐風化に取り組み、災害に強い施設整備 ・ 災害時においても食料の安定供給を維持するため、非常用電源設備を整備。 ○環境対応 ・ EVトラックが市場内で給電できるよう、市場内に給電設備を設置。 ・ 市場内で発生する食品残渣等を原料としたバイオマス発電、肥料等への再利用等	・ 災害時における事業継続計画（BCP）の策定 ・ 地方公共団体等との連携協定等の締結 ・ 電動フォークリフト、電動ターレの導入